

注意点1

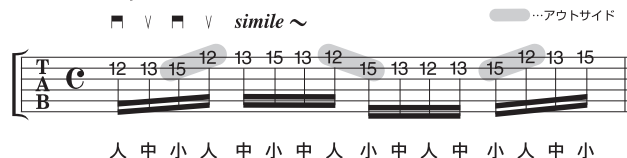


インサイド&アウトサイドの使い分けをマスターしよう

このようなフル・ピッキング・ソロを弾くためには、インサイド&アウトサイド・ピッキングを正確に使い分けなければならない。ただし基本的には、スケールの上昇・下降に合わせて“インサイドorアウトサイドのみが続くパターン”となることが多いので、落ち着いて弾けば、それほど苦労しないだろう。右の譜例は、アウトサイドとインサイドそれぞれに焦点を置いたフレーズとなっている。ここで、それぞれのピッキングの動きを再確認してもらいたい。アウトサイドは16音符のウラを強調したノリで、アップを引っ掛ける感じで弾けば良いだろう。それに対してインサイドは8音符のオモテのダウンをしっかり意識して弾くと良い。このノリの違いを理解すれば、ふたつの使い分けもスムーズにできる。

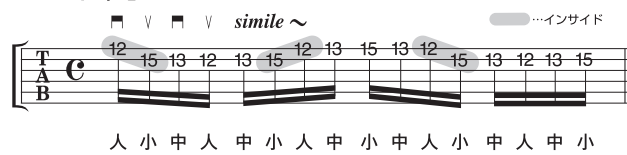
図1

アウトサイド中心のフレーズ



人 中 小 人 中 小 中 人 小 中 人 中 小 人 中 小

インサイド中心のフレーズ



人 小 中 人 中 小 人 中 小 中 人 小 中 人 中 小

注意点2



ハーモニック・マイナーのポジションを確認しよう

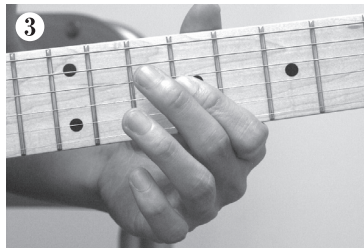
このフレーズを弾くためには、スケールを理解することが大切だ。このフレーズで使われているスケールは、これまで何度も登場してきたハーモニック・マイナーとなっているので、まずはポジションの流れを確認しよう。実際に弾く際に注意してもらいたいポイントは2点ある。1点目は、ハーモニック・マイナー的な運指が登場する2小節目4拍目だ(写真①~④)。人差し指による2弦9フレットから中指による3弦10フレットに移動した時点で、合わせて3弦9フレットに人差し指を移動させよう。次のポイントは4小節目。ここだけ、6連符になっているので、16分からのリズムの切り替えに注意しよう。少し急ぐ感じで弾くと良い。



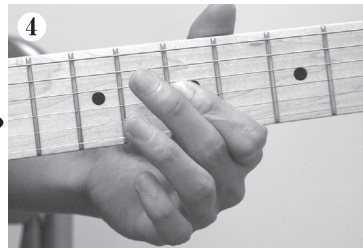
2弦 9f を人差し指で押弦。次の中指の押弦準備をしよう。



3弦 10f を中指で押弦。この時に人差し指も3弦に移動!



3弦 9f を人差し指で押弦。人差し指は隣接弦をミュートしよう。



3弦 7f を人差し指で押弦。人差し指の移動は素早く行なうこと!

~コラム 45 ~

地獄の戯れ言

筆者は、よく生徒に“自宅では、クリーン・トーンで練習した方がいいんですか?”と相談される。確かにクリーン・トーンは、歪んだ音に比べてしっかりと弾かなければ音が出ないので、フィンガリングやピッキングなどの練習には良い。しかし、ロック・ギタリストを目指す者が、クリーン・トーンでばかり練習をしていて良いのだろうか? 答えはNO! それはロック・ギタリストは、ライブやレコーディングなどのいわゆる“本番”では、歪んだ音で勝負しているからだ。極端な例だけど、プロ野球選手を目指す人が、バッティング・センターばかりに通ってもしょうがない。ピッチング・マシンの玉が打てても、人間のピッチャーの

自宅では“クリーン・トーン”で練習すべきなのか?

玉が打てなければ意味がないじゃないか。だから筆者は、自宅でも歪んだ音で練習することをオススメしたい。ただし、調子に乗って、ディストーションやディレイ・リバブをかけ過ぎたサウンドで練習するのはNGだ。クリーンとディストーションの中間に位置するドライブ・サウンドにするのが良いだろう。これは弱くピッキングすればクリーンっぽくなり、強くピッキングするとディストーションになるぐらいの歪みの設定を指しているのだが、このサウンドにすることで、ミュートやピッキング・ニュアンスなど細かなポイントをチェックすることができる。自宅でもライブなどの“本番”を意識して音作りをし、練習しよう。



野球なら、マシンの玉が打てても、人間の玉が打てなければ意味がない。ギターでも常にライブを意識して練習すべし!